

# アニメーションの作品名における 短縮語形成

五十嵐 芹 菜

## 1. はじめに

「パーソナルコンピューター」から「パソコン」、「ファミリーレストラン」から「ファミレス」というように、日本語では長い語はしばしば短縮が行われている。短縮語は普通名詞や人名、地名、若者言葉など広範囲に見受けられ、「恋の話」から「恋バナ」、「あけましておめでとうございます。」から「あけおめ」のように句や文単位にも浸透しだしている。とくに近年ソーシャル・ネットワークキング・サービス (SNS) の発達により、パソコンや携帯電話 (スマートフォン) のキーボードで文字を入力する際、すばやく、短いことばでコミュニケーションをとる必要性が高まったため、「り (了解。の略)」「乙 (お疲れ様です。の略)」のような1文字の極端に短い略語も使われるようになった。筆者は、そうした短縮語形成の際に、短縮語として残される要素が何であるのかについて深く興味を持った。短縮語形成について調べてみると、アニメーション作品の題名がしばしば短縮されていることに気が付いた。また、作品の題名は単純語から文単位のものまで短縮が行われていることが分かった。

短縮語形成に関しては、すでにいくつかの先行研究がなされており、複合語短縮では短縮された語の多くが4モーラ語であることや、その大半が短縮される前の複合語の前面要素の語頭2モーラと後部要素の語頭2モーラを結合したものであるなど、いくつかの形成パターンが明らかになっている。しかし、先行研究の多くは、単純語もしくは2語からなる複合語における短縮語形成の研究であり、3要素以上からなる複合語や句、文単位の短縮語形成を主題とした研究は管見の限りみられなかった。

本研究は、先行研究で明らかにされていない3要素以上からなる複合語や句、文単位における短縮語形成にはそれぞれどのようなパターンがあるのか、その形成要因および

特徴を明らかにすること、また、アニメーション作品の題名における短縮語形成時にどのような要素が残されるのかを分析、考察することが目的である。

## 2. 先行研究

日本語の短縮語形成に関する先行研究はいくつか挙げることができる。本節では、2.1で短縮語の一般的な特徴、2.2で単純語短縮、2.3で複合語短縮、2.4で句や文の短縮語形成に関する指摘、2.5で漢字表記の語を含む短縮語形成の特徴について、それぞれの先行研究を概観する。

### 2.1. 短縮語の一般的な特徴

窪蘭 (2002) は、語が短縮されるには、長い語であることと、よく使われる語であることが条件であるとし、長い語ほど短縮の可能性が高く、めったに使わない語は短縮の必要性がないと述べている。西尾 (1988)、窪蘭 (2002) は、短縮語形成については単純語、複合語ともに、(1) のように元の語の語頭の部分を残して、後半部分を省略するという形が最も基本的であると指摘している (下線部は短縮語の要素となる部分、・は語の境界を示す)。

(1) テレビジョン → テレビ (語頭3モーラが残る)

エア・コンディショナー → エアコン (各要素の語頭2モーラが残る)

語頭部分を残す理由として窪蘭 (2002) は、辞書で調べる行為やしりとりで最初の音の情報が重要になることなどを例に挙げ、語末は語の想起・同定につながる情報が少ないが、語頭は元の語の想起・同定が容易であるからだとしている。そのため、語末や途中の文字を取って作る造語法は一般的でない指摘している。また、1モーラの短縮語が形成されないのは1モーラ語を禁じる普遍性の高い最小性条件が働いており、短縮語の形成には「元の語が容易に復元できること」が条件になると述べている。

### 2.2. 単純語短縮

単純語短縮に関する先行研究には、Itô (1990)、窪蘭 (1995, 2002, 2010)、太田 (2014) が挙げられる。窪蘭 (2002) によれば、外来語の単純語は2～4モーラの長さに落ち着き、前部を残すパターンが圧倒的に多いとされる。Itô (1990)、窪蘭 (1995, 2002、

2010) の外来語の単純語短縮の研究によって示された短縮語を作る際の制約をまとめると、以下のようなになる。

(2) 単純語短縮の条件 (\*が付いているものは実際には生成されないもの)

a. 出力される語は2モーラ以上である。

例) イラストレーション → イラスト \*イ

b. 出力される語は2音節以上である。

例) パンフレット → パンフ \*パン

c. 出力される語は、4モーラ以下である。

例) イラストレーション → イラスト \*イラストレ

d. 軽音節 (1モーラ音節) + 重音節 (2モーラ音節) の2音節3モーラ語は許容されない。

例) デモンストレーション → デモ \*デモン

太田 (2014) は、短縮語の形成は「競争相手<sup>1</sup>がいるかどうか」を基準に説明する方が優れているとして、次のような提案をした。

(3) 太田 (2014, p.71) の単純語短縮についての提案

- i. 音韻的な基準・制約はあまり重要ではない。
- ii. 短縮した結果、意味が通じなくなつては元も子もない。
- iii. 候補語多数ではいけない。
- iv. どの語か同定 (identify) できるまで長くする。

本研究は、主に複合語、句、文の短縮について分析するものであるが、上記の単純語短縮の制約は短縮語形成一般に強く影響しているものと予想し、考察の対象とする。

### 2.3. 複合語短縮

複合語短縮に関する先行研究には、西尾 (1976,1988)、日比谷 (1998)、窪蘭 (2002) が挙げられる。西尾 (1976, 1988)、窪蘭 (2002) によれば、複合語短縮の形式は「各要素の語頭2モーラを結合した4モーラ語」と、「いずれかの要素をそのまま残す」パターンの2種類に大別できる。その中でも、「各要素の語頭2モーラを結合した4モー

ラ語」が最も生産性が高く、いずれかの要素をそのまま残すパターンでは、「最初の要素を残すパターン（後部省略）」が圧倒的に多いと述べている。また、日比谷（1998）が複合語の事例 365 語を検討した結果でも、同様の傾向がみられている。

#### (4) 複合語短縮の基本パターン

- a. 各要素の語頭 2 モーラを結合する。

例) ファミリー・レストラン → ファミレス

- b. いずれかの要素をそのまま残す。

例) 携帯・電話 → ケータイ

前述したように、(4) のような傾向がみられるのは、語頭を残すことで元の語が容易に想起できるためである。その条件に加えて、窪蘭（2002）は、日本語の複合語が基本的に「修飾部+主要部」の順で構成されていることを踏まえ、短縮の際に「修飾部となる要素を残す」という要請が働いた結果、複合語の前部要素が残るのではないかと主張している。

西尾（1988）、窪蘭（2002、2006）、森岡（1988）は、上記の基本の短縮語形成パターンに従わないものは特に隠語（若者言葉、やくざ言葉など）で多くみられると指摘している。本研究では、そうした隠語的な性質が短縮されたアニメーション作品の題名の中でもみられるのかについても考察したい。

窪蘭（2002）の指摘した複合語短縮における特殊モーラ（撥音「ん」、促音「っ」、長母音「ー」）の特徴をまとめると、以下のようになる。

#### (5) 複合語短縮における特殊モーラの特徴

- a. 4 モーラ目の長母音は落ちやすい。

例) テレホン・カード → テレカ

- b. 語頭 2 モーラ+語頭 2 モーラの短縮語形成時に語末の促音は 2 パターンに分けられる。

- i. 語末の促音が「っ」の形で残る。

例) 断然・トップ → ダントツ

- ii. 語末の促音が消え、次のモーラの音が補充される。

例) アメリカン・フットボール → アメフト

日比谷（1998）では、複合語短縮における8つの変音現象、すなわち、拗音直化（拗音の直音化）、長音短化（長音の短音化）、短音長音化（短音の長音化）、促音化、非促音化、連濁、半濁音化、音調転換を指摘している。

## 2.4. 句、文の短縮語形成に関する指摘

句の短縮語形成については、それ自体を主題に研究するものは無かったが、いくつかの言及がみられた。日比谷（1998）は、事例365語を集める際に、元の形が「名詞＋の名詞」や、「名詞＋と＋名詞」の句単位のを数例含め、複合語とまとめて検討している。また、窪菌（1995）は、語源的に見ると多くの複合語は句構造から派生したものであり、どちらも「修飾部＋主要部」という同じ構造を持つと述べている<sup>2</sup>。太田（2014）は「2モーラずつとりだして省略するパターンは、（中略）句や文にも広まってきた」（p.66）と指摘している。

## 2.5. 漢字表記の語を含む短縮語形成の特徴

窪菌（2002）は、漢字は大半が1文字＝2モーラのものであるため、漢語が短縮される場合、多くは「漢字2文字＝4モーラ」の構造を持つ短縮語になると述べている。また、「漢語の場合には「2モーラ＋2モーラ」の原則を破るものが少なくない。」（p.144）とも述べている。その理由として窪菌（2002）は、漢字は1文字1文字の意味があるため、意味にひかれて音韻規則を破り、文字を優先することが多いからだと述べている。一方で、若者言葉について日比谷（1998）は、「最近の流行語は漢字音のモーラに関係なく、つまり形態素の切れ目を無視して作られたものが多い」（p.63）と述べている。

### (6) 漢字要素を含む短縮語形成の特徴

- 多くは「漢字2文字＝4モーラ」が形成される（例）東京・大学 → 東大
- 「2モーラ＋2モーラ」にならないことがある（例）入学・試験 → 入試  
私立・大学 → 私大
- 若者言葉は形態素の切れ目を無視する（例）土壇場・キャンセル → ドタキャン

これらの先行研究を踏まえ、本研究ではアニメーション作品の題名における短縮語形成パターンとその形成要因および作品名の構成単位ごとの短縮語形成の相違、また、漢字の形態素がどのように短縮されているかについて分析、考察する。

### 3. 研究方法

#### 3.1. 分析対象

本研究は、アニメーション作品の題名（以下、アニメの作品名とする）を研究対象とする。様々な分野の語で短縮がみられるなかで、アニメの作品名を分析対象に選んだ理由は、アニメの作品名は複合語・句・文単位のものから短縮された名称（以下、略称とする）が多くみられるため、また視聴者がTwitterなどのSNSで作品に関してコメントの投稿を行う際にしばしば略称が用いられ、それらの使用状況が観察しやすいためである。

アニメの作品名の調査は、オンライン百科事典 Wikipedia という Web サイトの「日本のテレビアニメ作品一覧」を参考にして行った。この「日本のテレビアニメ作品一覧」は、日本国内で放送されたテレビアニメ作品を放送開始年別の一覧にまとめたものである。2018年7月から2020年12月の10クール（1クール＝3か月）の間に放送を開始したアニメ作品、全456作品（期間中にシリーズ作品として複数回放映したものは1つと数える）を調査した。アニメ作品の略称の収集にあたっては、アニメ作品の公式ホームページ、公式Twitterアカウント、視聴者がTwitter上に投稿したコメントを参考にした。まず、そのアニメ作品が公式に略称を用いているかを調べた。次に、公式の略称が無かった場合は視聴者の作品に関するコメントなどを調査した。調査して得た略称が、視聴者の間でよく使われているものなのかは、「Twitter上で、おおよそ50人以上の別々の人がツイート内で略称を使用しているかどうか」を基準に判断した。1つの作品に対し複数略称がある場合も、全て収集した（例：フルーツ・バスケット→フルバ、フルバス）。

アニメの作品名として分析するものは、基本的に副題や何シリーズ目かを表す要素は除いている。例えば、「恋愛幕末カレシ～時の彼方で花咲く恋～」は、副題の「～時の彼方で花咲く恋～」を除いて、「恋愛幕末カレシ」を分析対象とする。「ハイスコアガールⅡ」は、「Ⅱ」を除く「ハイスコアガール」を分析対象とする。理由は、それらの略称である「ばくかれ」「ハイスコ」の形成時に意識されているものには、明らかに「～時の彼方で花咲く恋～」「Ⅱ」は含まれていないと考えられるためである。また、「池袋ウエストゲートパーク」→「IWGP」のように、略称の形がローマ字の頭文字語の略称は本稿の分析の対象外とする<sup>3</sup>。

以上の調査により、収集された略称は合計276語であった。

### 3.2. 分析方法

収集した略称は、それぞれを短縮前の作品名の長さの単位ごとに5つに分類した。本稿では、3要素以上からなる複合語は「多要素複合語」とする<sup>4</sup>。5つの単位は、単純語、複合語、多要素複合語、句、文である。以下、(7)に分類される作品名の例を示す。また、本稿では作品名が英語表記のものは便宜上カタカナで記す。

#### (7) データの分類

- 単純語 (例)「デカダンス」「えんどろ〜！」
- 複合語 (例)「ポケットモンスター」「プリンセスコネクト」
- 多要素複合語 (例)「ゾンビランドサガ」「異常生物見聞録」
- 句 (例)「ジョジョの奇妙な冒険」「僕のヒーローアカデミア」
- 文 (例)「ぼくたちは勉強ができない」「風が強く吹いている」

以上のように分類した略称を対象に、モーラ数、短縮語の形成パターン、形態的特徴などに着目して分析を行い、単位ごとの短縮語形成の特徴などを調べた。

## 4. 分析

### 4.1. データ全体の分析

収集された略称、全 276 語の単位別の内訳を表 1 に示す。

表 1 単位別略称数

分類	単純語	複合語	多要素複合語	句	文	合計
略称数	3	69	53	91	60	276

全 276 語の短縮前のモーラ数は平均 11.7 モーラ、短縮後のモーラ数は平均 4.4 モーラであった。

図1に、作品名の略称、すなわち作品名をもとにした短縮語のモーラ数別の内訳を示す。

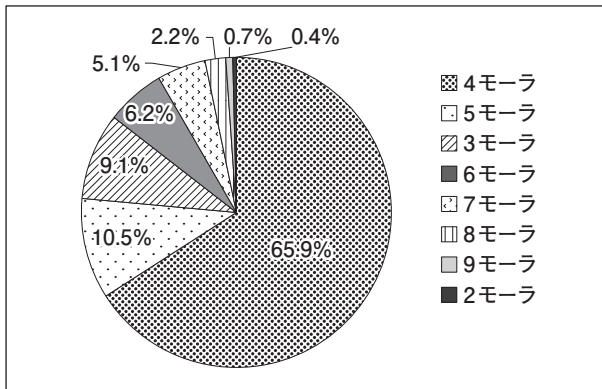


図1 作品名をもとにした短縮語のモーラ数

276語のうち182語(65.9%)が4モーラ語に短縮されている。次に5モーラ語が29語(10.5%)、3モーラ語が25語(9.1%)と続いた。2モーラ語は最も少なく、1語(「ジョジョの奇妙な冒険」→「ジョジョ」)のみであった。また、「軽音節(1モーラ音節)+重音節(2モーラ音節)」の3モーラ語は無かった。このことから、アニメの作品名における短縮語形成は4モーラ語が最も生産性が高いことが分かった。また、1モーラ語、「軽音節+重音節」が無かったことから、2.2でItô(1990)、窪蘭(1995、2002、2010)の指摘として挙げた、(2a)「出力される語は2モーラ以上である。」、(2b)「出力される語は2音節以上である。」、(2d)「軽音節(1モーラ音節)+重音節(2モーラ音節)の2音節3モーラ構造は許容されない。」という条件が強い制約として働いていることがうかがえる。加えて、4モーラ以外に短縮される場合は、4モーラを基準として前後3あるいは5モーラ語の形成が多くなり、4モーラからモーラ数が増えるほど形成されなくなるのではないかと推測される。



図2に、作品名をもとにした短縮語の形成パターン別の内訳を示す。

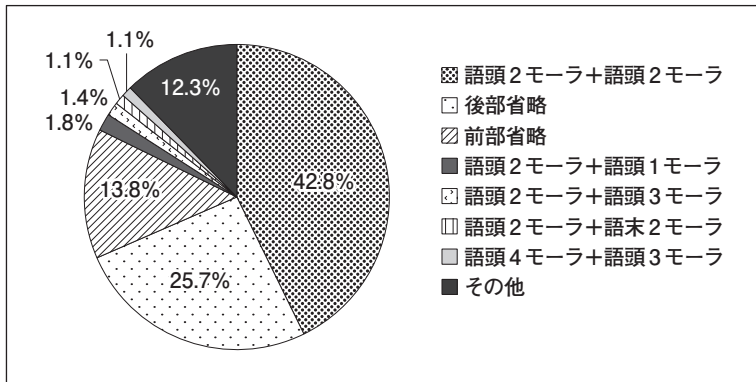


図2 作品名をもとにした短縮語の形成パターン

まず、形成パターンの分類について説明する。「○モーラ+○モーラ（○は数字を表す）」は、略称形成時に選択された「1つ目の要素のモーラ数+2つ目の要素のモーラ数」を表している。「○モーラ+○モーラ」の複合語の作品名の略称においては、複合語がそもそも2語で形成されているため、必ず作品名の最初の語が含まれる。「○モーラ+○モーラ」の多要素複合語、句、文の作品名の略称は、作品名の最初の語を含んでいないものであっても同じ形成パターンとして分類した（以下、枠線内は作品名の最初の語、/は文節の境界、下線部は短縮語の要素となる部分を示す）。

・「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の例

複合語： マギア・レコード → マギレコ

文： 俺が/好きなのは/妹だけど/妹じゃない → いもいも

同一の形成パターンとしてまとめる理由は、どちらも選択された2語から語頭2モーラずつをとって結合されている点で共通しているからである。

分類の結果、略称の形成パターンでは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の構成の語が118語で42.8%を占めた。「後部省略」は71語（25.7%）、「前部省略」は38語（13.8%）であった。

本研究においても、先行研究の指摘と同様に「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の4モーラ語の短縮語形成が最も多いという結果になった。また、「後部省略」は「前部省略」に比べ約2倍の生産性がみられた。

## 4.2. アニメの作品名の単位別の分析

単純語・複合語・多要素複合語・句・文の各単位の作品名の短縮語形成を分析したのち、複合語、多要素複合語、句、文における短縮語形成の比較結果を述べる。

### 4.2.1. 単純語の作品名における短縮語形成

単純語の作品名をもとにした短縮語は、以下の3作品名のみでみられた。

デカダンス → デカダン  
えんどろ〜! → えんどろ  
リストージ → リステ

単純語をもとにした短縮語の3語はいずれも「後部省略」である。「デカダンス」は、語末で母音の無声化が起りやすい「ス」が省略されている。「えんどろ〜」は第5モーラの長音が省略されている。「リストージ」は4モーラ語に短縮しようとした場合、第4モーラに長音があるため、「リステ」になったと考えられる。事例数が少ないため一般化することはできないが、上記3語の中には、Itô (1990)、窪蘭 (1995、2002、2010) の単純語短縮の条件に反するものは無かった。

### 4.2.2. 複合語の作品名における短縮語形成

複合語の作品名をもとにした短縮語は69語あった。短縮前のアニメ作品名のモーラ数は平均8.4モーラ、短縮後のモーラ数は平均3.9モーラであった。

表2に、複合語をもとにした短縮語のモーラ数別の語数と割合を示す。

表2 複合語をもとにした短縮語のモーラ数

モーラ数	語数	%
4	52	75.4
3	14	20.3
5	2	2.9
6	1	1.4

複合語をもとにした短縮語は、4モーラ語が52語（75.4%）で最も多く、次に3モーラ語が14語（20.3%）と続いた。よって、複合語の作品名のうちほぼすべてが、4モーラもしくは3モーラ語に短縮されたことになる。

図3に、複合語をもとにした短縮語の形成パターン別の内訳を示す。

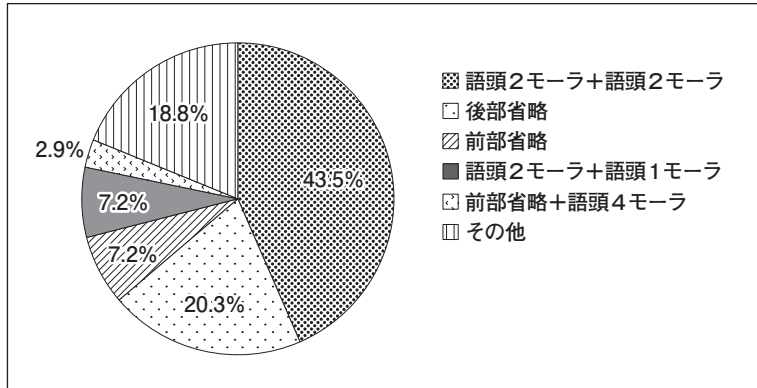


図3 複合語をもとにした短縮語の形成パターン

形成パターンでは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」が30語（43.5%）を占め、「後部省略」は14語（20.3%）、「前部省略」は5語（7.2%）であった。「後部省略」は「前部省略」に比べ3倍近くの生産性がみられた。また、「語頭2モーラ+語頭1モーラ」は「前部省略」と同数の5語（7.2%）みられた。「その他」には、「語末1モーラ+語頭2モーラ」や、「語頭2モーラ+語頭1モーラと語末2モーラ」などがみられた。以下に、それぞれの形成パターンの例を示す。

(8) 複合語をもとにした短縮語の形成パターンの例（・は語の境界を表す）

- ・ 語頭2モーラ+語頭2モーラ     ドクター・ストーン     →   ドクスト
- ・ 後部省略                     デジモン・アドベンチャー →   デジモン
- ・ 前部省略                     天才・バカボン             →   バカボン
- ・ 語頭2モーラ+語頭1モーラ   シャドウ・バース             →   シャドバ
- ・ 前部省略+語頭4モーラ     アイカツ・オンパレード     →   オンパレ
- ・ その他                         サイコ・パス                 →   コパス

#### 4.2.3. 多要素複合語の作品名における短縮語形成

多要素複合語の作品名をもとにした短縮語は53語あった。短縮前のアニメ作品名を構成する要素数は平均で3.3要素、モーラ数は平均10.7モーラであった（要素数は、「新」「超」なども1要素として数えている）。また、短縮後のモーラ数は平均4.8モーラであった。

表3に、多要素複合語をもとにした短縮語のモーラ数別の語数と割合を示す。

表3 多要素複合語をもとにした短縮語のモーラ数

モーラ数	語数	%
4	30	56.6
5	7	13.2
6	6	11.3
7	5	9.4
8	3	5.7
3	2	3.8

表3をみると、4モーラ語が30語（56.6%）と半数以上を占めている。5～7モーラ語への短縮の割合にはほとんど差がなかったが、3モーラ語への短縮は2語（3.8%）のみと、他のモーラ数の語と比べあまり形成されないようである。

図4に、多要素複合語をもとにした短縮語の形成パターン別の内訳を示す。

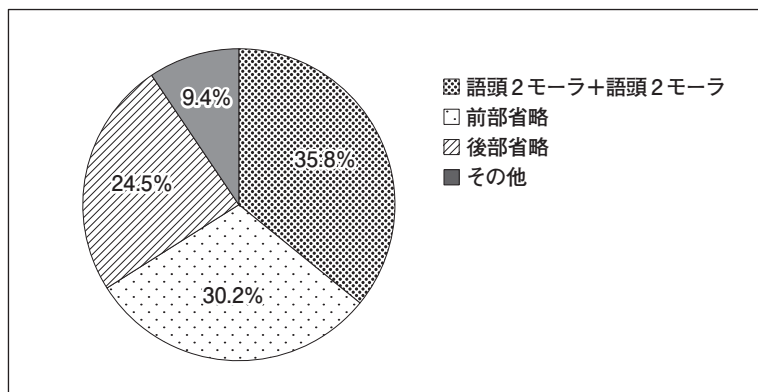


図4 多要素複合語をもとにした短縮語の形成パターン

形成パターンでは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」が19語（35.8%）と、多要素複合語のアニメ作品名の短縮語においても、「各要素の語頭2モーラを結合した4モーラ語」が最も多く形成されることが分かった。次に、16語（30.2%）が「前部省略」であった。「後部省略」は「前部省略」に比べてやや少なく13語（24.5%）という結果になった。「その他」には、「語頭1モーラ+語頭1モーラ+語頭1モーラ」などがみられた。以下に、それぞれの形成パターンの例を示す。

(9) 多要素複合語をもとにした短縮語の形成パターンの例

- 語頭2モーラ+語頭2モーラ モブ・サイコ・100（ひゃく） → モブサイ
- 前部省略 地縛・少年・花子くん → 花子くん
- 後部省略 八十亀ちゃん・かんさつ・につき → 八十亀ちゃん
- その他 デート・ア・ライブ → デアラ

4.2.4. 句の作品名における短縮語形成

句の作品名をもとにした短縮語は91語あった。短縮前のアニメ作品名を構成する文節数は平均2.5文節、モーラ数は平均12.1モーラであった。また、短縮後のモーラ数は平均4.6モーラであった。

表4に、句をもとにした短縮語のモーラ数別の語数と割合を示す。

表4 句をもとにした短縮語のモーラ数

モーラ数	語数	%
4	56	61.5
5	9	9.9
7	8	8.8
3	7	7.7
6	6	6.6
9	2	2.2
8	2	2.2
2	1	1.1

表4から、4モーラ語が56語（61.5%）と全体の6割を占めていることが分かる。それを除く残り38.5%については、モーラ数は多様であった。2モーラ語は、「ジョジョの奇妙な冒険」→「ジョジョ」の1語のみみられた。

図5に、句をもとにした短縮語の形成パターン別の内訳を示す。

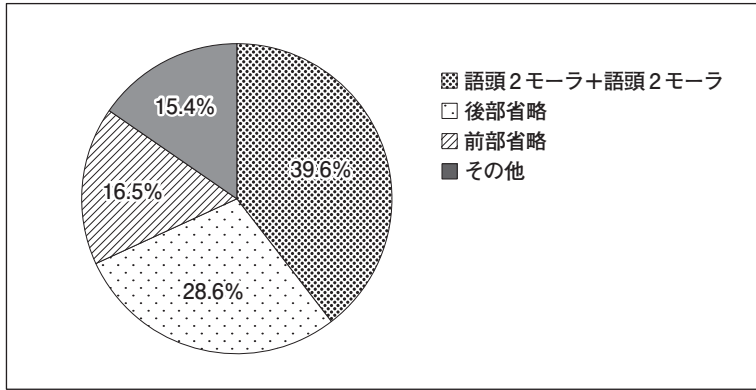


図5 句をもとにした短縮語の形成パターン

形成パターンは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」が36語（39.6%）と4割を占めており、句のアニメ作品名の短縮語においても「各要素の語頭2モーラを結合した4モーラ語」が最も多く形成されていた。「後部省略」は26語（28.6%）、「前部省略」は15語（16.5%）であった。「その他」には「語頭2モーラ+語末2モーラ」などがみられた。以下に、それぞれの形成パターンの例を示す。

#### (10) 句をもとにした短縮語の形成パターンの例

- 語頭2モーラ+語頭2モーラ 転生したら / スライムだった / 件 → 転スラ
- 後部省略 進撃の / 巨人 → 進撃
- 前部省略 彼方の / アストラ → アストラ
- その他 五等分 (ごとうぶん) の / 花嫁 → ごとよめ

#### 4.2.5. 文の作品名における短縮語形成

文の作品名をもとにした短縮語は60語みられた。短縮前のアニメ作品名を構成する文節数は平均3.2文節で、モーラ数は平均15.9モーラであった。また、短縮後のモーラ数は平均4.4モーラであった。

表5に、文をもとにした短縮語のモーラ数別の語数と割合を示す。

表5 文をもとにした短縮語のモーラ数

モーラ数	語数	%
4	42	70.0
5	11	18.3
6	4	6.7
3	1	1.7
8	1	1.7
7	1	1.7

表5から、4モーラ語が42語（70.0%）と7割を占めていることが分かる。次に、5モーラ語が11語（18.3%）、6モーラ語が4語（6.7%）という順になっていた。

図6に、文をもとにした短縮語の形成パターン別の内訳を示す。

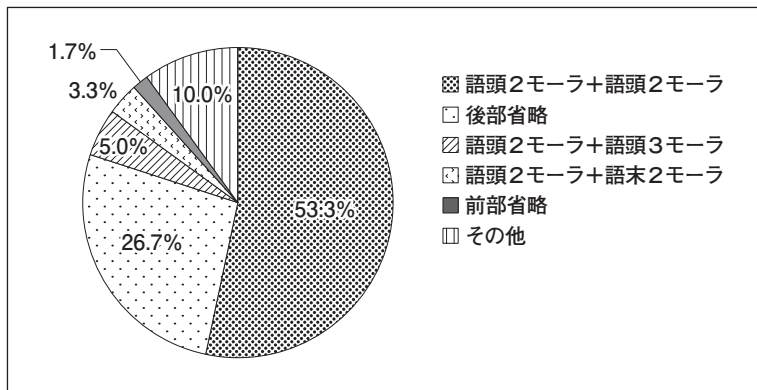


図6 文をもとにした短縮語の形成パターン

形成パターンは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」が32語（53.3%）と5割を占めており、文の作品名の短縮語においても「各要素の語頭2モーラを結合した4モーラ語」が最も多かった。次いで、「後部省略」が16語（26.7%）であった。「語頭2モーラ+語頭3モーラ」は3語（5.0%）、「前部省略」は1語（1.7%）のみであった。以下に、それぞれの形成パターンの例を示す。

(11) 文をもとにした短縮語の形成パターンの例 (/は文節の境界を示す)

- 語頭 2 モーラ + 語頭 2 モーラ ぼくたちは / 勉強が / できない → ぼく勉
- 後部省略 宇崎ちゃんは / 遊びたい! → 宇崎ちゃん
- 語頭 2 モーラ + 語頭 3 モーラ 超人高校生たちは / 異世界でも / 余裕で / 生き抜くようです! → 超余裕
- 語頭 2 モーラ + 語末 2 モーラ 彼女、 / お借ります → かのかり
- 前部省略 魔入りました! / 入間くん → 入間くん
- その他 やはり / 俺の / 青春ラブコメは / まちがっている。 → はまち

### 4.3. 作品名の単位別の比較

本節では、4.2. で分析した結果をまとめ、作品名の長さの単位による短縮語形成の違いを分析する。なお、単純語は事例数が少ないため分析には含めない。

まず、表 6 に、短縮前のモーラ数別作品名数を単位ごとに示す。

表 6 短縮前のモーラ数別作品名数

単位	作品名数	短縮前のモーラ数					
		5 ~ 10	11 ~ 15	16 ~ 20	21 ~ 25	26 ~ 30	31 ~
複合語	69	63	6	0	0	0	0
多要素複合語	53	25	25	3	0	0	0
句	91	35	42	10	2	2	0
文	60	13	25	8	7	2	5

短縮前は、複合語の作品名には 16 モーラ以上のものはなく、また単位が大きくなるごとに当然のことながらモーラ数の多いものが増えていく。次に、以上を踏まえ、短縮が行われた後のモーラ数別の割合を分析する。



図7に、単位別にみた短縮後のモーラ数別の割合を示す。

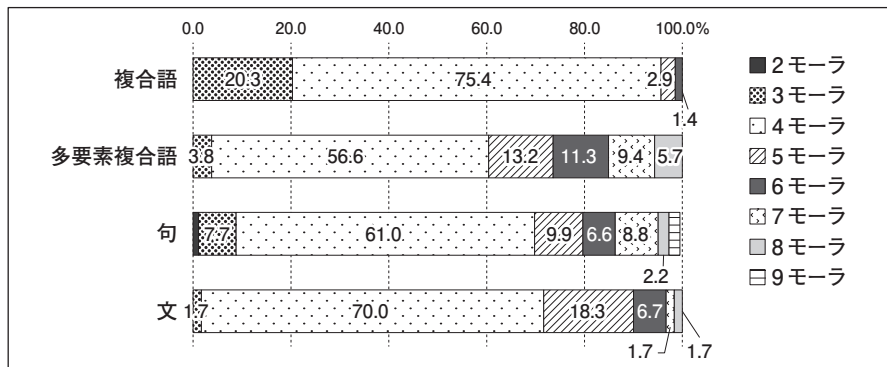


図7 単位別にみた短縮後のモーラ数

図7が示すように、どの単位であっても短縮後のモーラ数は4モーラ語が5割を超え、他と比べ圧倒的に多い。このことから、短縮語の多くが4モーラ語に形成されるという傾向は、短縮前の単位に関係なく短縮語形成全般に広くみられるものであると考えられる。単位ごとに比較すると、3モーラ語は複合語において最も形成される割合が高い。また、多要素複合語・句・文の単位においては、5モーラ以上の短縮語が複合語に比べて高い割合で形成されている。

図8に、単位別にみた短縮語の形成パターン別の割合を示す。

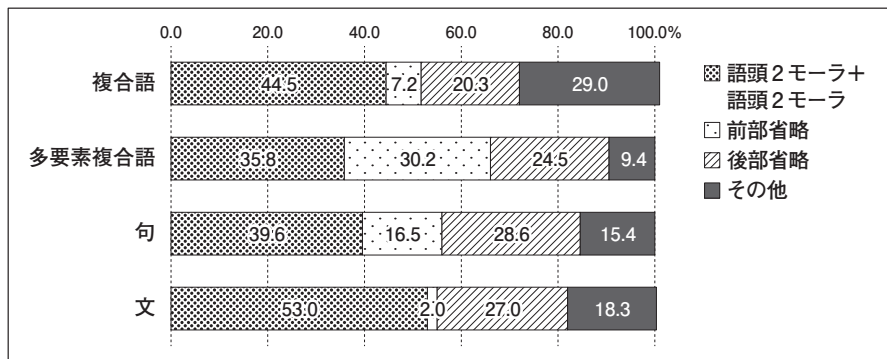


図8 単位別にみた短縮語形成パターン

いずれの単位も「語頭 2 モーラ+語頭 2 モーラ」の割合が最も高い。複合語短縮の先行研究で述べられていた、各要素の語頭 2 モーラをとって 4 モーラ語を形成するという基本パターンが、多要素複合語や句、文の短縮語形成においても同様に当てはまることが明らかになった。多要素複合語を除く 3 単位においては、「前部省略」より「後部省略」がより形成の割合が高かった。また、他の単位に比べ、文においては「前部省略」の割合が低くなっている。

#### 4.3.1. 3 モーラ語の短縮語形成

4.3 で述べたように、単位別で比較した際、3 モーラ語は複合語において最も形成される割合が高かった。3 モーラ語は複合語で 14 語、多要素複合語で 2 語、句で 7 語、文で 1 語あった。複合語でみられた 14 語は「語頭 2 モーラ+語頭 1 モーラ」で形成されたものが 5 語、前部または後部が省略されたものが 7 語、その他特殊なものが 2 語であった。多要素複合語・句・文では「語頭 2 モーラ+語頭 1 モーラ」は形成されておらず、以下の例のように前部もしくは後部を省略して固有名詞や作品名の最初の 3 文字を残し、3 モーラ語になったものがほとんどであった。

ソマリと / 森の / 神様 → ソマリ  
とある / 科学の / 超電磁砲 → とある

「語頭 2 モーラ+語頭 1 モーラ」は複合語においてのみみられたが、その形成要因には特殊モーラの回避、もしくは母音の無声化が起りやすい語末の「ス」の省略が考えられる。

- ・特殊モーラの回避      妖怪・ウオッチ      → 妖ウオ
- ・語末の「ス」の省略      デュエル・マスターズ      → デュエマ

このことから、多要素複合語や句、文で「語頭 2 モーラ+語頭 1 モーラ」の 3 モーラ語が形成されないのは、それらの単位では短縮語の候補となる要素が 2 語以上あり、わざわざ非典型の「語頭 2 モーラ+語頭 1 モーラ」の形をとる必要が無く、別の形成パターンをとるからだと推測される。

#### 4.3.2. 5 モーラ以上の短縮語形成

4.3 で述べたように、複合語では 3 例のみである 5 モーラ以上の短縮語が、多要素複合語・句・文においては 25% 以上の割合で形成されている。単位が大きくなることによって、短縮語形成はどのように変化するのだろうか。各単位における短縮語をみて気

付くのは、短縮語が複合語や句の形に形成されているものがあるということである<sup>5</sup>。

(12) 短縮後の構造が複合語、句の形をとる例

- 複合語の形に短縮されたもの 放課後・ていぼう・日誌 → ていぼう日誌  
魔王学院の / 不適合者 → 魔王学院
- 句の形に短縮されたもの 犬と / 猫 / どっちも / 飼ってると / 毎日 / たのしい  
→ 犬と猫

表7に、単位ごとの5モーラ以上の短縮語数と、単純語、複合語、句の形をとる短縮語数を示す。「俺ガイル（やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。）」のように、2つ以上の語の一部分が結合して短縮されたものは「その他の形」に分類した。

表7 5モーラ以上の短縮語（単純語・複合語・句の形）の単位別語数

短縮前の 作品名の単位	5モーラ以上 の短縮語	短縮後の形			
		単純語の形	複合語の形	句の形	その他の形
複合語	3	3	0	0	0
多要素複合語	21	8	12	0	1
句	27	14	13	0	0
文	17	8	5	2	2

複合語の作品名の短縮では、前部・後部省略の場合、形成される語は必然的に単純語の形だけである。しかし、多要素複合語・句・文においては、複合語や句の形の短縮語が形成されるようになることが分かる。その結果、多要素複合語・句・文において5モーラ以上の語の形成の割合が複合語に比べ高くなったと考えられる。

4.3.3. 前部省略と後部省略の短縮語形成

4.3で、多要素複合語を除く3種類の単位では前部省略より後部省略の方が生産性が高いことを述べた。窪菌（2002）では、「修飾部+主要部」の構造を持つものは「主要部」が省略され、後部省略となると述べている。「修飾部+主要部」の構造を持つ作品名の多くは、句や文のものであった。

(13) 「修飾部+主要部」の構造を持つ句・文の作品名の短縮例

ひぐらしの/なく頃に → ひぐらし

土下座で/頼ってみた → 土下座で

(13) のように、「修飾部+主要部」の構造を持つ句・文の作品名は、「主要部」が省略され、修飾部が残るといった傾向があった。アニメの作品名の短縮においても、「修飾部+主要部」の構造が後部省略の生産性を高めるひとつの要因となっていると考えられる。また、文の作品名は「主語+述語」の構成で、主語を残す傾向があった(例: オオカミさんは/食べられたい→オオカミさん)。文において、「前部省略」の形成の割合が低かったのはそのためだと考えられる。

#### 4.4. 非典型的な短縮語形成パターン

アニメの作品名全体における主要な短縮語形成パターンは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」、「後部省略」、「前部省略」の3つであった。以下では、非典型的な形成パターンについてまとめる。変音現象を伴って短縮するパターンについては4.5でまとめる。

① 「語頭2モーラ+語頭1モーラ」(5語)

シャドウ・バース → シャドバ

この形成パターンは全て複合語の作品名の短縮においてみられた。いずれも非促音化、長音の短音化、語末の「ス」の省略が影響してこの構成になったと考えられる。他の例は4.5で論じる。

② 「語頭2モーラ+語頭3モーラ」(4語)

押し(おし)が/武道館/いってくれたら/死ぬ → 押し武道

超人高校生たちは/異世界でも/余裕で/生き抜くようです! → 超余裕

盾の/勇者の/成り上がり → 盾勇者

うちの/メイドが/ウザすぎる! → ウザメイド

この形成パターンは、句・文においてのみみられた。上から3語は、短縮後の形が複合語になっている。「押し武道」「超余裕」は、同じ要素で「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の短縮をしようとする、漢字の形態素内で分断が起こる。それを回避した結果、語頭の3モーラが採用されたと考えられる。「盾勇者」「ウザメイド」についても、「勇者」「メイド」という1語のまとまりが優先され、5モーラ語が形成されたと考えられる。

③ 「語頭 4 モーラ+語頭 3 モーラ」(3 語)

ガイコツ・書店員・本田さん → ガイコツ本田

百鍊の/霸王と/聖約の/戦乙女 (ヴァルキュリア) → 百鍊霸王

この勇者が/俺 TUEEE (ツエエエ) くせに/慎重すぎる → 慎重勇者

「ガイコツ本田」「慎重勇者」は、「語頭 2 モーラ+語頭 2 モーラ」を形成しても漢字の形態素内で分断は起きないが、その形成パターンにはなっていない。

④ 「語頭 2 モーラ+語末 2 モーラ」(3 語)

彼女、/お借りします → かのかり

痛いのは/嫌なので/防御力に/極振りしたいと/思います → 防振り

五等分 (ごとうぶん) の/花嫁 → ごとよめ

⑤ 「語頭 2 モーラ+語中 2 モーラ」(2 語)

モンスター娘の/お医者さん → モン医者

私、/能力は/平均値でって/言ったよね! → のうきん

⑥ 「④⑤以外の、要素の語末もしくは語中からとって形成したもの」(3 語)

サイコ・パス → コパス

カラフル・パストラーレ → カラパレ

ひとりぼっちの/○○ (まるまる) 生活 → ぼっち生活

窪蘭 (2002) は、語中や語末の文字を取って作る造語法は一般的ではないと述べているが、上記の④⑤⑥の 8 語では、こうした特殊な短縮がみられた。また、「かのかり」「防振り」「モン医者」に共通していることは、語頭の接頭辞を含まないということである。短縮語形成時には、接頭辞は避けて短縮される傾向があるのではないかと推測される<sup>6</sup>。

⑦ 「前部省略+語頭 4 モーラ」(3 語)

インフィニット・デンドログラム → デンドロ

アイカツ・オンパレード → オンパレ

荒野の/コトブキ/飛行隊 → コトブキ

上の 2 語は複合語の作品名を短縮したものである。後部の 4 モーラのみで短縮語を形成しており、Itô (1990)、窪蘭 (1995、2002、2010) の「外来語短縮は 4 モーラ以下に収める」という制約が、外来語を含む複合語短縮においても働いている可能性を示唆する。

⑧ 「3要素の結合短縮」(2語)

新・サクラ・大戦 → 新サク大

デート・ア・ライブ → デアラ

「3要素の結合短縮」は、多要素複合語の短縮においてみられた形成パターンである。この2語以外の短縮は全て2要素を結合するものであった。

⑨ 「漢語化」(2語)(二重下線は変化した要素を示す)

ストライク・ウィッチーズ → スト魔女

ゴールデン・カムイ → 金カム

「漢語化」は2語でみられた。2語の共通点は「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成する場合、「ストウィッ」「ゴークム」となり特殊モーラが含まれるということである。外来語を2モーラの漢語に変化させることで特殊モーラを回避し、基本のパターンである「2モーラ+2モーラ」を形成している。

⑩ 「和語化」(1語)

アイドリッシュ・セブン → アイナナ

「和語化」は1語でみられた。3モーラの英語の数字「セブン」から2モーラの日本語の数字「ナナ」に変化させることで、「アイセブ」のように後部要素の単語内で分断を起こすことなく、基本のパターンである「2モーラ+2モーラ」を形成している。

⑪ 「外来語化」(1語)

ピーター・グレルと/賢者の時間 → 賢者タイム

「外来語化」は1語でみられた。

⑫ 「音訓転換」(2語)

明治・東京・恋伽 (めいじとうきょうれんか) → めいこい

青春・ブタ・野郎 (せいしゅんブタやろう) → あおブタ

「音訓転換」は2語でみられた。どちらも音読みから訓読みへ変化している。

⑬ 「活用語尾の変化」(1語)

波よ/聞いてくれ → 波聞き

「活用語尾の変化」は1語でみられた。そのまま短縮すると「なみきい」となるが、4モーラ目の長音の短音化を避けるため、活用語尾が変わったと推測される。

⑭ 「語順の変化」(4語)

この勇者が/俺 TUEEE (ツエエエ) くせに/慎重すぎる → 慎重勇者

うちの/メイドが/ウザすぎる! → ウザメイド

アイドル・マスター・シンデレラ・ガールズ → デレマス  
100万の / 命の / 上に / 俺は / 立っている → 俺100

「この勇者が俺 TUEEE くせに慎重すぎる」「うちのメイドがウザすぎる!」は、語順に従って短縮するならば「勇者慎重」「メイドウザ」となるが、作品名内の語を倒置することで短縮後の形が「修飾語＋被修飾語」に整えられ、「慎重勇者」「ウザメイド」となっている。

⑮ 「特殊」(2語)

やはり / 俺の / 青春ラブコメは / まちがつている。 → 俺ガイル  
やはり / 俺の / 青春ラブコメは / まちがつている。 → はまち

語中の要素や、助詞・助動詞を含み短縮語形成をしており、調査で得たデータの中で最も非典型的な形成と言える。こうした短縮の事例がみられるのは非常に興味深いことである。

#### 4.5. 変音現象

変音現象は、①長音の短音化(12語)、②非促音化(5語)、③拗音の直音化(3語)、④連濁(1語)がみられた。

① 長音の短音化：語頭の2モーラずつをとると、どちらかの要素で第2モーラが長音になる場合、その次のモーラが残る。または、長音が省略され3モーラ語になる。

アズール・レーン → アズレン  
ぼくの / ヒーロー・アカデミア → ヒロアカ  
シャドウ・バース → シャドバ

② 非促音化：語頭の2モーラずつをとると、どちらかの要素で第2モーラが促音になる場合、その次のモーラが残る。または、促音が省略され3モーラ語になる。

ハッピー・シュガー・ライフ → ハピシュガ  
ダブル・デッカー → ダブデカ  
妖怪・ウオッチ → 妖ウオ

③ 拗音の直音化：語頭の2モーラずつをとると、どちらかの要素で第2モーラが拗音になる場合、直音化する。

ナナブンノ / ニジュウニ → ナナニジ  
ご注文 (ごちゅうもん) は / うさぎですか? → ごちうさ

④ 連濁：短縮後に連濁が起こる。

可愛ければ / 変態でも / 好きになって / くれますか？ → 変好き (へんずき)

以上がアニメ作品名における短縮でみられた変音現象である。日比谷 (1998) で報告された、促音化、短音の長音化、半濁音化の現象は、今回収集したデータの中ではみられなかった。

変音現象とは異なるが、母音の無声化が起こりやすい語末の「ス」が省略されていると推測される事例が3語あった。

デカダンス → デカダン

フルーツ・バスケット → フルバ

デュエル・マスターズ → デュエマ

#### 4.6. 漢字表記の語を含む短縮語形成

漢字表記の語を含む2語をもとに構成された短縮語は、全276語のうち81語であった。81語のうち、漢字の形態素内で分断が起きるものを除き「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成したものは過半数の45語(55.5%)であった。つまり、多くは漢字1文字が2モーラであることで、形態素内で分断が起きず「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成したということである。短縮語を構成する2要素で「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成しようとする、漢字の形態素内で分断が起きる語は16語あったが、そのうち形態素内で分断せずに「語頭2モーラ+語頭2モーラ」以外の形成をしたものは3語、分断が起こったまま「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成したものは13語であった。よって、アニメの作品名の短縮においては、漢字表記の語を含んだ短縮語形成時に漢字の形態素内で分断が起こる場合、形態素のまとまりよりも、「語頭2モーラ+語頭2モーラ=4モーラ」の拍数が優先されると考えられる。

(14) 「語頭2モーラ+語頭2モーラ」を形成しようとする、漢字の形態素内で分断が起きる場合の短縮語形成の例

- 「語頭2モーラ+語頭2モーラ=4モーラ」の拍数を優先する (13語)

私 (わたし) に / 天使 が / 舞い降り た！ → わたてん \*私天 (わたしてん)

- 形態素のまとまりを優先する (3語)

推し (おし) が / 武道館 / いって くれたら / 死ぬ → 推し武道 \*推しぶど



#### 4.7. 短縮語の構成要素

アニメの作品名をもとにした短縮語の形成時には、どのような要素が残されるのだろうか。固有名詞（キャラクター名や作品独自のことば）を含む95作品名のうち、90作品名（94.7%）で固有名詞を残して短縮語が形成されていた。

図9に、固有名詞を含む作品名の短縮語形成パターン別の内訳を示す。

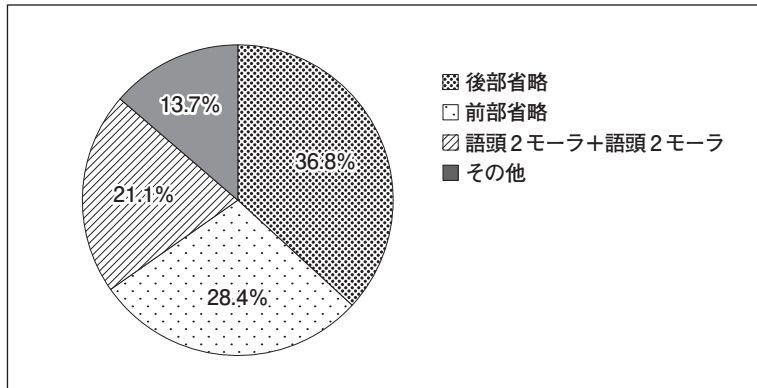


図9 固有名詞を含む作品名の短縮語形成パターン

「語頭2モーラ+語頭2モーラ」より「後部/前部省略」のパターンが多い。よって、固有名詞が含まれている作品名は「語頭2モーラ+語頭2モーラ」よりも、前部もしくは後部を省略し、固有名詞をそのまま残して短縮語を形成する傾向があるといえる。

普通名詞で構成されているものは、181作品名であった。

図10に、普通名詞で構成されている作品名の短縮語形成パターン別の内訳を示す。

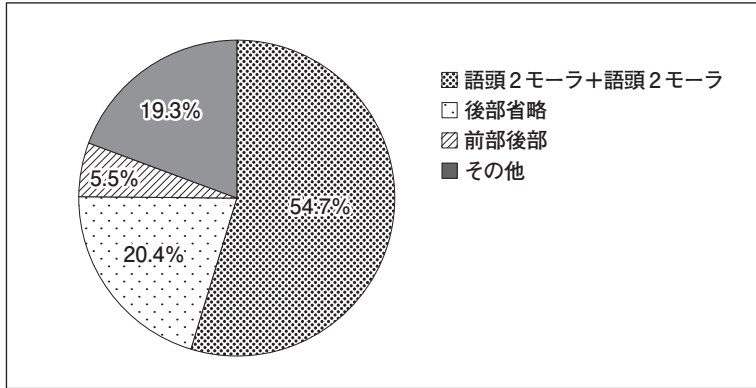


図 10 普通名詞で構成されている作品名の短縮語形成パターン

固有名詞を含む作品名とは異なり、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」が54.7%と、過半数がこの形成パターンであった。また、後部要素よりも前部要素を残す割合が高いといえる。

固有名詞が含まれていない場合、どのような要素が優先的に残されるのだろうか。普通名詞で構成されている181作品名のうち、153作品名(84.5%)が作品名の最初の語の要素を含み短縮していた。また、そのうち「最初の語の要素+2番目の語の要素<sup>7)</sup>」から形成された短縮語は94語、「後部省略」で形成された短縮語は37語、「最初の語の要素+2番目以外の語の要素」から形成された短縮語は22語(例：ほしの/島の/にゃんこ→ほしにゃん)であった。その22語は、多要素複合語・句・文における短縮語形成でみられた。このことから、普通名詞で構成されている作品名の多くは、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の短縮語を形成し、それを構成する2要素は作品名の最初の語の要素と2番目の語の要素をとる形成が基本のパターンであることが分かった。

#### (15) 短縮語の構成要素の典型例

- 固有名詞を含む作品名の場合：固有名詞がそのまま残る。

かぐや様は / 知らせたい? → かぐや様

- 普通名詞で構成されている作品名の場合：最初の語と2番目の語から構成される。

スタンド・マイ・ヒーローズ → スタマイ

普通名詞で構成されている作品名において、最初の語を含まずに短縮した語は28語であった（例：恋愛・幕末・カレシ→ばくかれ）。そのうち、大半を占める26語が多要素複合語・句・文をもとにした短縮語であった。

## 5. まとめと考察

アニメの作品名の短縮語形成においても、先行研究の結果と同様に「語頭2モーラ＋語頭2モーラ」の4モーラ語が最も多く形成されることが分かった。また、主な短縮語形成パターンは「語頭2モーラ＋語頭2モーラ」、「後部省略」、「前部省略」であった。非典型的な短縮語形成パターンは多様であり、語種が変化するものや活用語尾が変化するものなど特殊な事例もみられた。複合語、多要素複合語、句、文の単位ごとに短縮語形成を比較すると、全ての単位で「語頭2モーラ＋語頭2モーラ」が最も生産性が高かった。3モーラ語は、複合語において最も形成される割合が高かった。多要素複合語・句・文の作品名は、短縮後の形が複合語や句になることで、5モーラ以上の語になる割合が複合語の作品名に比べ多くなった。また、句や文の作品名は、「修飾部＋主要部」や「主語＋述語」の構造があるものが多く、それが後部省略の生産性を高める要因になったと推測される。このことから、多要素複合語や句、文の作品名においては、短縮語の構成要素になりうる要素が2つ以上あること、また句や文は短縮前の構造がより複雑であることによって、複合語の作品名における短縮語形成とは異なる様相もみられたと考えられる。

短縮後に残される要素については、作品名に固有名詞がある場合、その語がそのまま残されることが多い。それが最も作品名の想起を容易にする要素だからであろう。一方、作品名が普通名詞で構成されている場合は、「語頭2モーラ＋語頭2モーラ」の形成の割合が最も高い。普通名詞で構成されている作品名は、「前部／後部省略」によって短縮された場合、元の作品名を想起することが困難になるからだと考えられる。（「フルーツ・バスケット」を「フルーツ」と短縮すると、作品名は想起しにくい。）普通名詞で構成されている作品名は、基本的には作品名の最初の語と2番目の語の要素をもとに短縮語が形成されるが、多要素複合語や句、文の作品名においては最初の語を含まない短縮語や、最初の語を含んでも2番目以外の語が次の要素となるものも少なくない。窪蘭（2002）、太田（2014）は、短縮語形成において元の語を想起・同定できることが重要であると述べており、窪蘭（2002）は、そのためには元のことばの最初の要素を残すことが重要であると述べていた。しかし、多要素複合語や句、文の単位における

短縮語形成では、元のことばを想起させるにあたって、最初の語を含み構成する必要性が低くなる可能性が示唆される。最初の語を含まない事例をみても、「乙女ゲームの破滅フラグしかない悪役令嬢に転生してしまった」→「はめふら」、「同居人はひざ、時々、頭のうえ」→「ひざうえ」など、どの語が残されるのかは恣意的であり説明することは難しい。多要素複合語や句、文の作品名において最初の語と2番目の語以外から構成される短縮語が少なくないことも、短縮語の構成要素になりうる要素が2つ以上あることが要因だろう。

アニメの作品名をもとにした短縮語は、作品名を想起できるようにするため、多くは固有名詞を残す、最初の語を含むなどの基本の形成パターンに従っている。しかし、語中や語末を採って作る短縮語形成や、「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」→「はまち」のように元の形の想起が困難な形成がみられること、また、拍数を優先し、漢字の形態素を分断する傾向があるということから、アニメの作品名をもとにした短縮語には隠語や若者言葉的な性質を持つ側面があるといえるだろう。そのような性質は、アニメ作品の視聴者集団の独自性や連帯感の強化に繋がっていると考えられる。

## 6. おわりに

本稿では、アニメの作品名における短縮語形成を分析した。

冒頭にも述べたように、句や文の短縮語は広がっており、SNSの発達により今後ますます増えていくと予想される。そうした中で、単純語や複合語以外の単位における短縮語の形成パターンや特徴を示せたことは、今後の短縮語研究の発展の一端を担うことができたのではないかと考える。

本研究の問題点は、分析する事例数が276語と少なかったことである。より正確に短縮語形成の特徴を明らかにするには、分析する事例数を増やす必要があると考える。本研究では、「やはり俺の青春ラブコメはまちがっている。」→「はまち」は最も非典型的な形成であると述べたが、筆者が思いつく限りでも「彼女がフラグをおられたら」→「がおられ」、「僕は友達が少ない」→「はがない」が挙げられ、文の作品名においては助詞を第1要素として含む短縮語が一定数作られている可能性がある。そうした形成パターンの分析については、今後の研究の課題としたい。

### 注

1 太田(2014)の「競争相手」とは、一般的な日本語話者の持つ語彙数の中で、その語形と競合

する可能性があるとして想定される語の数である。例えば「テレビジョン」が短縮される場合、競争相手がなくなるまでの過程を示すと以下ようになる。

「テ」競争相手：10語→「テレ」競争相手：3語→「テレビ」競争相手：0語

- 2 ただし、窪蘭 (1995) は、役職名・人名が関わっているもの、地名が関わる語に関しては「修飾部+主要部」の構造をとらないと述べている。
- 3 「ローマ字の頭文字語」は、書き言葉として使うことを前提に作られることが多い。つまり、声に出すことを想定して作られていないことが多いため、主に音韻的な分析をおこなう本研究では分析の対象外とする。
- 4 複合語短縮の先行研究における研究対象は「2語同士が結合してできた複合語」であった。そこで本研究では、複合語を「独立性をもつ2語が結合してできた単語」と定義する。3要素以上からなる複合語は「多要素複合語」とし、別の単位として扱う。
- 5 句の形に短縮されたものを語であると考えたことは違和感があるかもしれないが、例えば「土下座で頼んでみた」の略称「土下座で」は、句の形ではあるが名詞として用いられている。よって、句の形へ短縮したのもも語として用いられているため1語とする。
- 6 接頭辞が省略されない例も以下の2例があったが、その2例は「お兄さん」、「お母さん」の接頭辞「お」を含んでいた。この「お兄さん」「お母さん」という語は、接頭辞を含めて1つの単語のまとまりとして認識される度合いが高いということもあるのではないかと推測される。  
働く／お兄さん！ → はたおに  
通常攻撃が／全体攻撃で／二回攻撃の／お母さんは／好きですか？ → おかすき
- 7 助詞は語として数えていない。(例：約束のネバーランド→最初の語：約束、2番目の語：ネバーランド)

## 参考文献

- Itô, Junko. (1990). Prosodic Minimality in Japanese. *Proceedings of Chicago Linguistic Society* 26 (2) pp.213-239
- 太田聡 (2014)「短縮語形成管見」『異文化研究』8巻 pp.63-80 山口大学人文学部異文化交流研究施設
- 窪蘭晴夫 (1995)『語形成と音韻構造』くろしお出版
- 窪蘭晴夫 (2002)『新語はこうして作られる』岩波書店
- 窪蘭晴夫 (2006)「若者ことばの言語構造」『月刊言語』35巻3号 pp.52-59 大修館書店
- 窪蘭晴夫 (2010)「語形成と音韻構造—短縮語形成のメカニズム—」『国語研プロジェクトレビュー3』 pp.17-34 国立国語研究所
- 西尾寅弥 (1976)「造語法と略語法」鈴木考夫編『日本語の語彙と表現』 pp.27-62 大修館書店
- 西尾寅弥 (1988)『現代の語彙の研究』明治書院

日比谷潤子 (1998)「複合語短縮」『世界の日本語教育』第8号 pp.47-65 国際交流基金日本語国際センター

森岡健二 (1988)「略語の条件」『日本語学』7巻10号 pp.4-12 明治書院

## 参考サイト

「日本のテレビアニメ作品一覧」Wikipedia. 2020年4月19日更新.

〈<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AE%E3%83%86%E3%83%AC%E3%83%93%E3%82%A2%E3%83%8B%E3%83%A1%E4%BD%9C%E5%93%81%E4%B8%80%E8%A6%A7>〉(最終閲覧日:2020年11月29日)

## 要旨

本研究は、日本語の語形成の一種である短縮について論じる。先行研究から、日本語の複合語短縮では短縮された語の多くが4モーラ語であり、その大半が短縮される前の複合語の前部要素の語頭2モーラと後部要素の語頭2モーラを結合したものであるなど、いくつかの形成パターンが明らかになっている。本研究は、アニメーション作品の題名における短縮語形成を分析し、先行研究で明らかにされていない3要素以上からなる複合語(多要素複合語)や句、文の単位においてどのような短縮語形成パターンがあるのか、その形成要因および特徴はどのようなものか、また、短縮語形成時にどのような要素が残されるのかを分析、考察することが目的である。

近年のアニメーション作品456作品を調査し、得られた短縮された名称、合計276事例を分析対象とした。短縮された名称を作品名の構成単位ごとに、単純語、複合語、多要素複合語、句、文に分類し、それぞれについてモーラ数や形成パターン、変音現象、形態素などの観点から分析を行った。

分析の結果、アニメーション作品の題名における短縮語形成では、「語頭2モーラ+語頭2モーラ」の4モーラ語の形成が最も生産性が高いことが分かった。多要素複合語、句、文における短縮語形成では、複合語の短縮語形成と異なり5モーラ以上の語も一定の割合で形成されることなどが分かった。また、短縮語として残される要素は固有名詞が優先され、固有名詞が無い場合は2語以上を結合し短縮する傾向があると明らかになった。